

180
8
291

大日本教育會館總館	
室	第
三	六
五〇號	四架
冊	函

表

頁一第

裁縫讀本

大阪府
手藝校
教則圖解

裁縫讀本

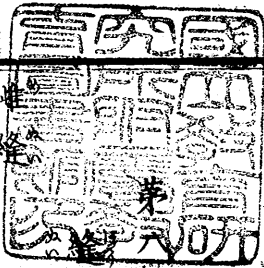
岡野金門編輯

卷之四

大阪府手藝
校則圖解 裁縫讀本卷之四

岡野金門 編輯

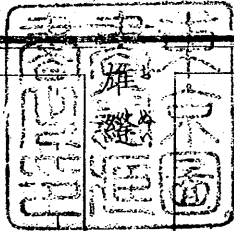
定價九錢



雌縫

章
織の名稱

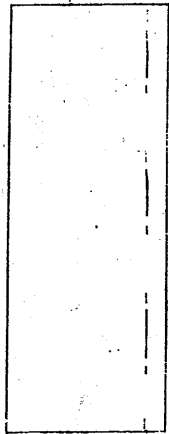
六十六條



縫織の疎密にて區別す
糸目乃表面へ多く露る
ると雌と云ふ
少く露ると雄と云ふ
此らハ多く樂東幕旗類
或も服紗等の縫織なり

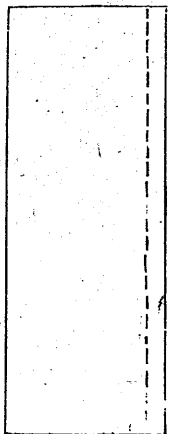
裁縫讀本

雌雄縫



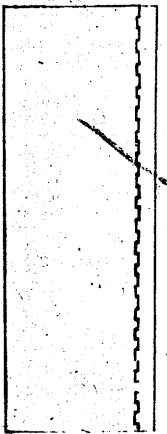
表裡へ雌雄の糸目と露すと云ふ
此らハ多く袷東或ハ小兒の袖端飾縫に用ゆ

單縫



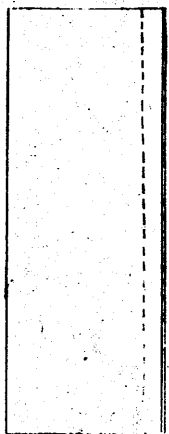
一枚縫と云ふ
此らハ多く旗或ハフラ等薄地のもれと斜或は十文字刺の縫鉞なり

彌縫 ○拾縫とも云

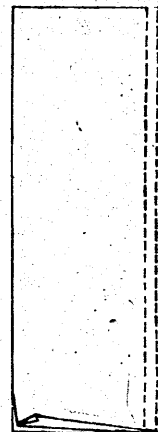


縫目の表裏と糸の間断なきよう再び縫と云
此らハ多く幕旗幟フラ野簾前垂風呂敷等端の縫鉞なり
○二枚合併し縫と云此尋常の縫方なり

併縫

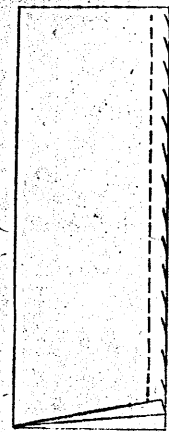


併雙縫



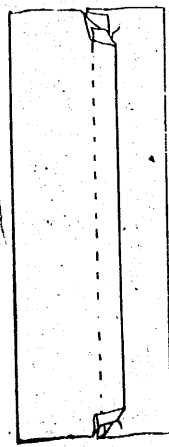
併縫になしたる織耳の端と縫と云

併雙纏



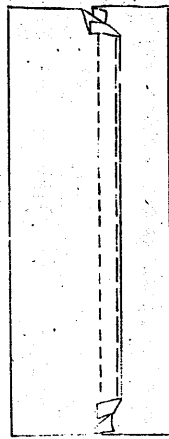
併縫になしたる裁端と纏と云ふ

併伏折縫。巻縫とも云



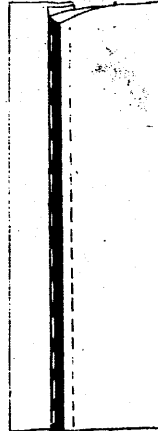
併縫に成たる縫端と伏折り縫付ると云ふ

併伏折縫



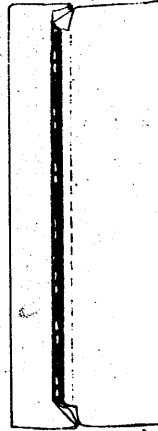
併縫に成たる縫端と伏折り縫付ると云ふ

併伏耳縫



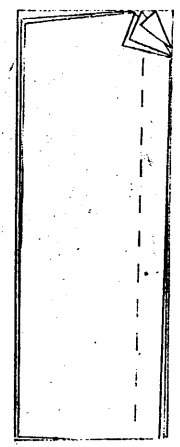
併縫に成たる織耳の端
と伏せ縫付ると云ふ

併伏耳縫



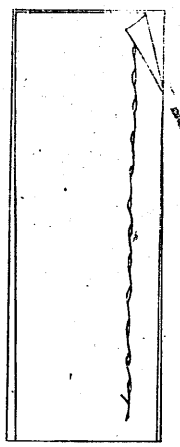
併縫に成たる織耳の端
と伏せ縫付ゆを云ふ

束縫



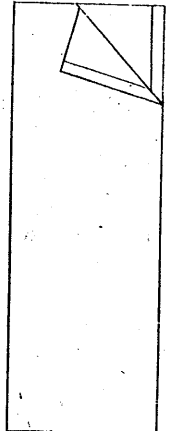
三枚以上併し縫と云ふ
此らハ總て衣服の表裡
と合併し縫鍼するに用
ふ

戻縫。返一鍼と云ふ



縫跡の中央へ鍼と返し
表面へ糸と重ね縫と云
ふ
此等ハ多く衣服袋物の
類に用ゆ

潜縫



甲乙の折目と對合一縫糸と表面へ露ハまざる

よう折の中へ隠一疎に縫と云ふ是尋常の潜縫方なり類の等帯或ハ紐

○糸潜縫。ケシ潜縫とも云ふ

裡より織地の糸目と拾ひ一鍼抜に縫ひ表へ返すと云ふ

○戻潜縫

縫糸の緩さるため裡より戻縫になし表へ返

すと云ふ

○縫潜縫

裡より連刺縫になし表へ返すと云ふ

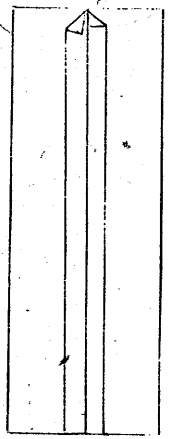
○一鍼潜縫

裡より一鍼抜き密かに縫ひ表へ返すと云ふ

○重潜縫

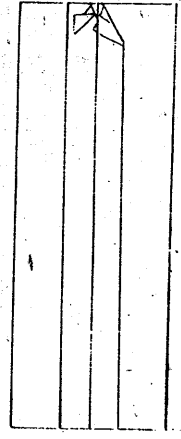
折目の出入せざるため甲乙對合一表より折除と一鍼抜き密らに縫ると云ふ

割継



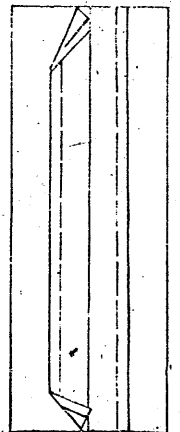
二枚合併し密織に縫ハ
縫目の際と左右へ割折
するを云此尋常の割継
なり

割継折綴



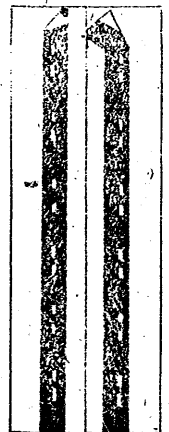
割継に成たる縫端を折
り綴付ると云ふ

割継折縫



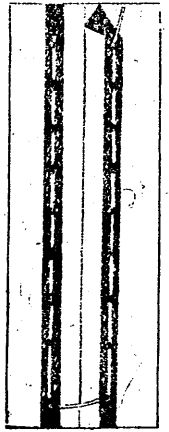
割継に成たる縫端を
折り綴付ると云ふ

割継耳綴



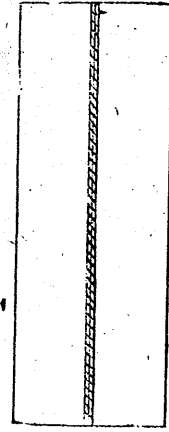
割継に成たる織耳の端
を伏せ綴付ると云ふ

割継耳縫



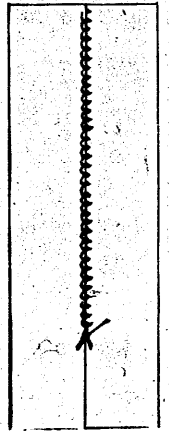
割継に成したる織耳の端を伏せ縫付ると云ふ

掛継



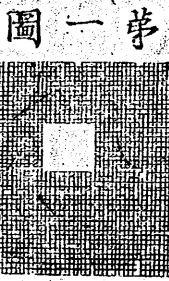
甲乙の折際を對合し一鐵抜き密りに纏と云ふ此尋常の継方なり

纏掛継



甲乙の折際を對合し一鐵抜きにて縫跡の糸へ掛け密りに纏と云ふ

疵系掛継の部

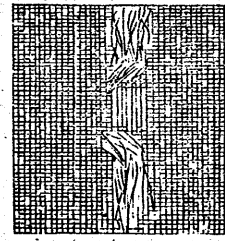


第一乃圖の如く疵の有る所を裁取り裁口乃縦糸と一糸づゝ鐵の尖にて抜出し置き縫跡の長同糸と鐵に貫き其抜糸際の際の横糸二三

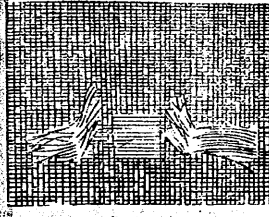
第一圖

糸の中より第一の圖の如く抜跡乃糸目を拾ひ

圖二第

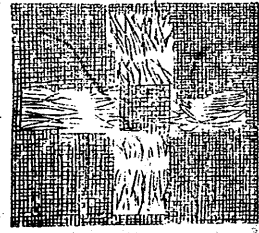


圖三第

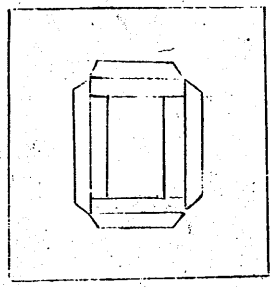


編み同糸の端ハ縫初め縫終乙
の裁口ハ甲の如く縦糸の抜跡
へ糸目を順次に拾ひ編むべし
第三の圖ハ如く横の裁口ハ縦
となす如く横糸を一条づつ抜
出し其抜糸際の縦糸二三糸の
中より抜跡の糸目と拾ひ編む
縫糸の端ハ縦乙の裁口も甲の
となすと同一の裁口も甲の
如く横糸の抜跡へ糸目と順次

圖四第



裁填
疵の大きき時用切

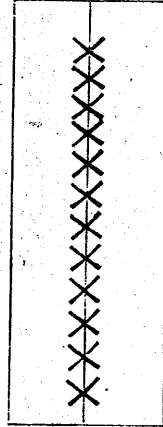


に拾ひ編み糸可し第四の圖
乃如く縦横の疵糸の濟たる右
ハ編糸の口へ少く水と付け
一今程糸を残り置きて裁つべ
疵の有る四方を裁取り裁口へ
同織地を裁合せ継友ハ總て疵
糸法の如く縦横抜糸の跡と順
次に拾ひ編み填ると云小

○畧裁填。畧まりぬも云ふ

疵の有る所と裁取り四方の裁口と裡へ二分づゝ折り填入れの同織地ハ其折口の寸分に違はず甲乙の折際と對合一一鍼抜にて縫糸へ掛け密らに纏と云ふ此等ハ織地の厚薄により裁填

鎖繼

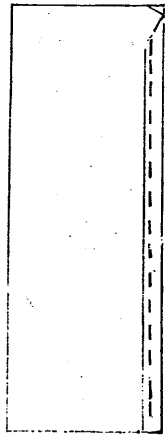


甲乙の裁端と對合一表
面と十字形に纏と云ふ
此等ハ羅紗或ハ革類と
繼ぐ時に用ゆ

○羅紗繼。潛繼と云ふ

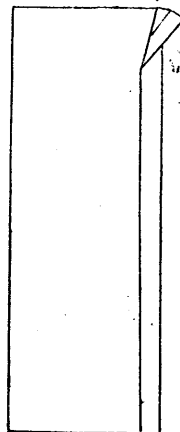
甲乙裁端と對合一表裡へ繼糸の露れさる様織毛の中へ糸を潛せ繼と云ふ

端折縫



端と裡へ二重に折り一の折際にて縫付ると云ふ此等ハ前垂れ或ハ野簾等の端乃縫鍼なり

端折綴



端と裡へ二重に折り一の折へ糸と潜せ綴ると云ふ

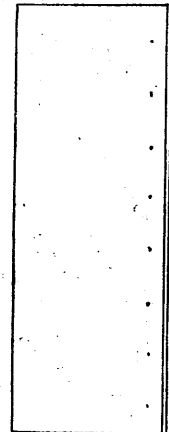
○端折耳縫

端と裡へ折り織耳の端と縫と云ふ

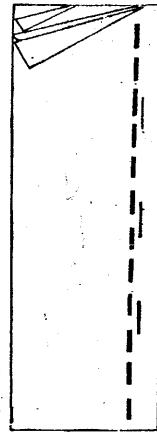
○端折耳綴

端と裡へ折り織耳の端と綴ると云ふ

綴



隠綴
なな綴とも云ふ



○表裡の動き離さざるため

甲乙縫目の際と對合
縫糸の際と疎らに綴ると云ふ

表裡の動きさるため織

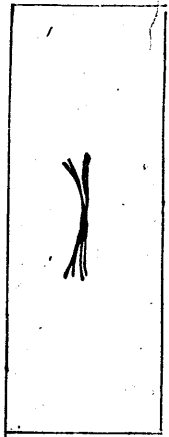
糸へ一二糸掛け密鍼に

去て疎に綴ると云ふ

此等ハ多く衣服の裾或

ハ袖口等の綴鍼なり

夜看綴よみぞり。一文字綴ひとじと云ふ

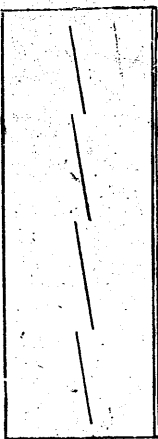


入綿いんわたの動うごらざるため表おもて面めんより一文字ひとじに結むすぶ糸いとの端はしと裁きと云ふ

○星綴ほしぞり

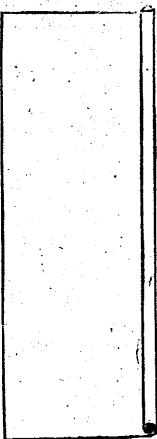
數十枚とせうまい重ねたる織地おりぢと動うごらざるため密鍼ひそぎに綴結むすぶ糸いとの端はしハ適宜てきぎんに裁きと云ふ此等こゝろハ多く及物およぶものと綴むするに用ゆ

仮綴かりぞり



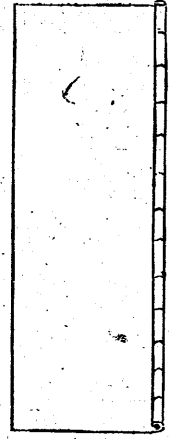
織地おりぢと重ねかさね箇所かた目めと付け或ハ裁断きりだんするとき表おもて裏うら動揺うごせざるため仮かりに綴むすると云ふ

端巻綴はたまきぞり。機綴はたぞりとも云ふ

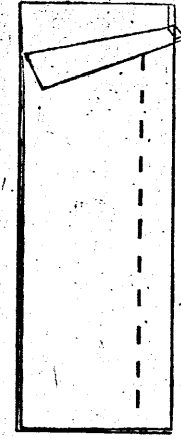


端はたと裡うらへ然しかり込こみ綴むすると云ふ此等こゝろハ多く装束まつぷくの端はた綴むすに用ゆ

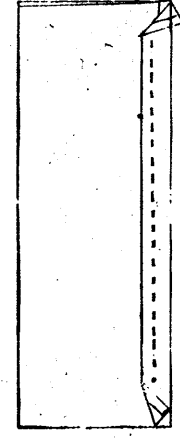
端卷節綴。燃込節綴とも云



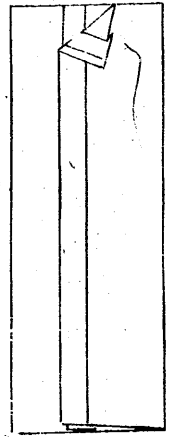
縦防縫。撥留又は返し縫いとも云ふ



略縦防縫



隠縫。縫目不知とも云ふ



端と裡へ燃たる方より

表へ鍼と貫き縫跡の糸

へ掛纏ひ順次に節とな

し燃込の中へ糸を隠し

綴と云ふ此等ハ多ク茶巾

甲乙裁端の裡と對合し

表面より縫い縫目の際

より裡へ折返し縫込の

端へ糸の掛らざる様再

縫と云ふ此等ハ單衣と縫と

甲の裁端と裡へ二重に

折り乙の裁端と夾み甲

の一乃折際と縫と云ふ

甲の端と裡へ四五分巾

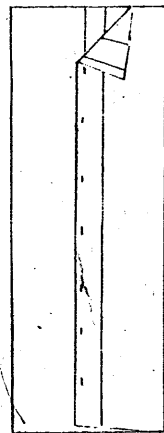
に折乙乃端へ甲の折目

と併せ縫甲の端と乙の

端へ折伏せ綴ると云ふ

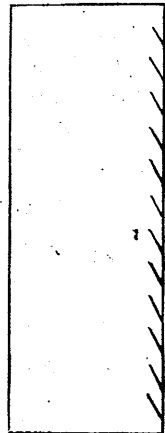
此等ハ單衣或ハ幕袋等

略隠縫



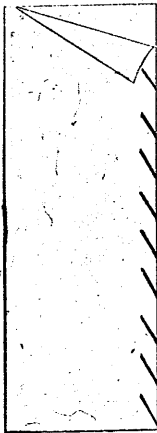
甲の端を裡へ四五分巾に折記の端へ甲の折目を併せ縫ひ甲の端と記の端へ伏せ縫ると云ふ

端纏



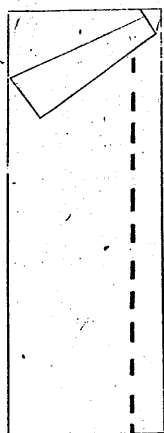
裁端を一合掛け纏と云ふ
此等ハ多く裁口の織糸解ぎるために用ゆ

両端纏



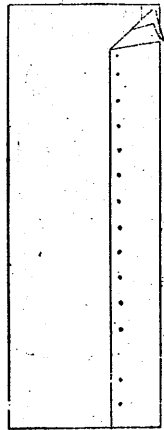
裁端を三枚拾併し一合掛け纏と云ふ
此等ハ裁端の糸解げざるために用ゆ

松縫



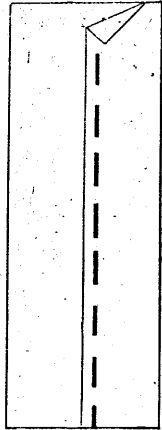
折目と二三分離れ縫と云ふ
此等ハ多く神廣の物を裁断せず折端を離れ縫目と付る時に用ゆ

星縫



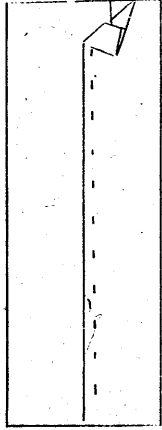
甲の折端へこの裁端と
夾み置き、戻縫乃縫糸は
星の如く表面へ露えし
縫と云ふ 此等ハ多く袷袋縫
のとき用ゆ

朕縞



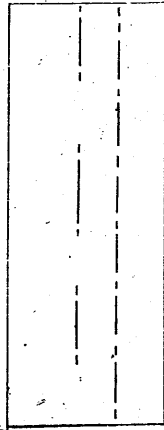
表面より折際と疎鍼に
縫留ると云ふ
此等ハ多く縫目折際等
の開き動ざるためにな
す縫方なり

隠朕縞



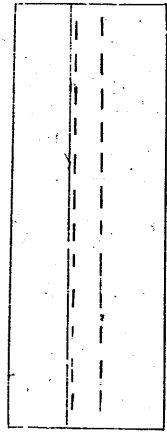
表面より折際と密鍼に
縫留ると云ふ

飾縫縞
飾縫カサミ縞ハ。飾縫カサミと云ふ



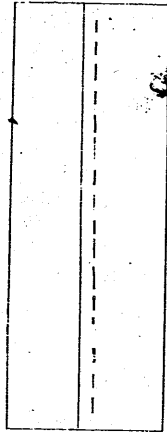
表面より端と雌縫或ハ
雌雄縫になすと云ふ

重縫



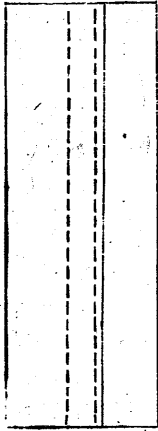
甲乙の織耳と重ね二行に縫ふ云ふ
此等ハ多く幕或ハ襦類と縫に用ゆ

略重縫



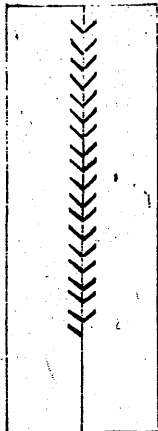
甲乙の織耳と重ね一行に縫ふ云ふ

端折重縫



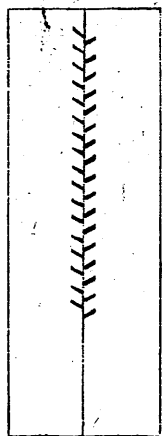
甲乙の端と折り重ね二行に縫ふ云ふ

藤纒



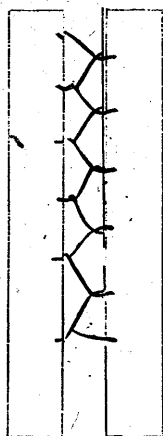
甲乙の端と整合一甲の端の裡より表へ鍼と抜乙の裡より貫く糸下と經て順次に纏と云此等ハ類と縫ひ或ハ革類と縫に用ゆ

略藤纏



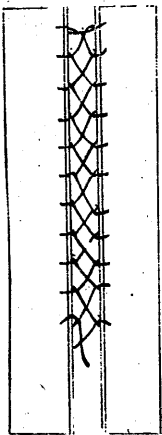
両端と縫合し甲乙とも
裡より表へ鍼を貫き順
次に纏と云ふ

兩端亀甲纏



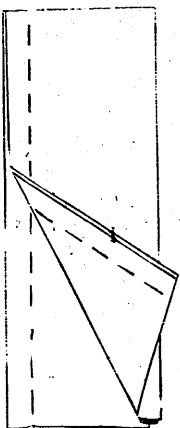
甲乙の端と隔て縫跡の
糸へ掛け纏ひ亀甲形乃
如く順次に兩端と纏と
云ふ 此等ハ袷東或ハ合羽の
袖縫三枚羽織の脇縫に
用ゆ

兩端菱纏



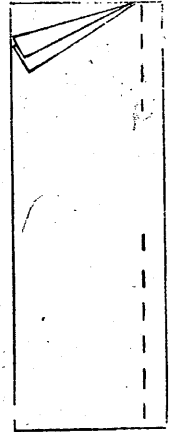
甲乙の端と隔て縫跡の
糸へ掛け纏ひ亀甲形乃
如くになり再び縫糸
の中央で前の如く掛け
纏と云ふ

分縫



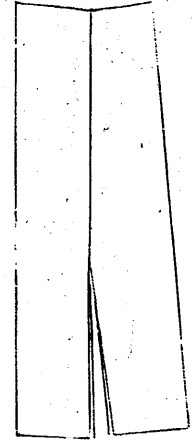
四枚練縫のとき二枚づ
ゝ兩端に分ち縫と云ふ
此等ハ多く衣服裡付袴
等と縫るときに用ゆ

外縫。さなちぬいとも云ふ



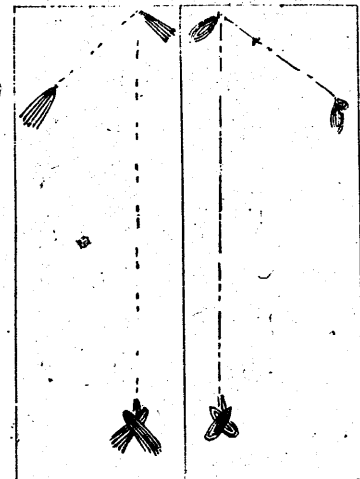
束縫のとき中途にて裡と外し縫を云ふ
此等ハ多く周圍を縫詰り裡返すときに用ゆ

夾縫。四つ留とも云



甲の縫口へ乙の縫口を夾み束縫と云ふ
此等ハ多く袖口を縫に用ゆ

守縫。一つ身背縫



男女と論せず五色の糸にて十二鍼に縫ふ男子ハ雄縫となし三鍼を左へ斜に女子ハ雌縫となし三鍼を右へ斜に縫ひ雄糸の端ハ断切雌糸ハ環結び小なす又紐の留縫にも雌雄陰陽の數と分ち男ハ紐の縫目と下に一女ハ上に一縫留む也

縫鍼雜部

○ 敷糸

破傷志たる衣服の裡へ同織切を伏せ密織に

綴るぞ云ふ

○ 揚積

内揚積 外揚積

有餘する寸分を扱み縫留ると云ふ

○ 乳母附

片面織物にて長けの不足したるも紐を以て

鉤裁するときは社の鉤紐を生ず之を別合し

右前にて成丈け皺積せざる様縫合すと云ふ

○ 繡

環繡。開環繡。嬰粟繡。すか繡。相

良繡。然糸繡。蛇腹伏。銀砂子繡。同糸繡

花鳥。押画。結物。組物。絞物

○ 連刺縫

尋常の運鍼と云ふ

○ 一鍼抜

一鍼づ、抜出順次に縫と云ふ

○ 漂置縫

糊の多く入りたるもの縮

皺せざるため端を押へ縫と云ふ

○ 留鍼

織物を重ね裁断するとき刺留と云ふ

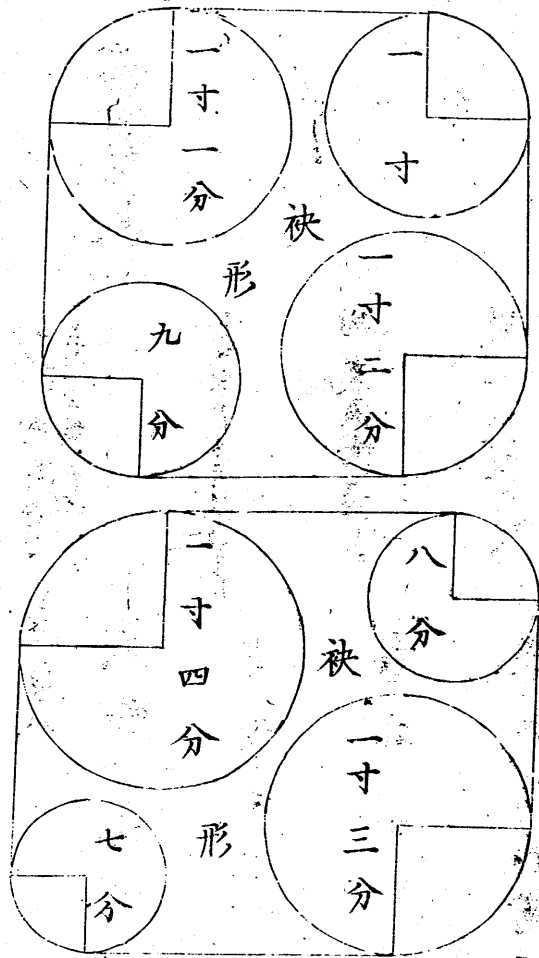
○ 待鍼

織物の縮と張を入合するとき或は縫

留の印に刺留と云ふ

K110.51
7

大阪府手藝裁縫讀本卷之四大尾
校則圖解



明治十二年七月十五日版權免許
同 年十月 一卷出版
同 十三年十二月二卷ヨリ四卷マデ出版

編輯兼出版人

大阪府東區北濱四丁目六番地
野留岡山縣

岡野金門

大阪府東區橋本町四丁目
吉岡平助

岡東區本町四丁目
書籍會社

岡北區老松町三丁目
泰助利兵衛

發 光